

平成23年度 赤穂市学校評価 外部評価報告書

学校名 赤穂市立赤穂小学校

1 本年度の学校経営方針

- 1 ものごとに意欲的に取り組み、確かな学力を身に付ける。
- 2 一人一人の個性を尊重し、自他を大切にすることを培う。
 - ① 基礎基本の確実な定着を図り、創造性や個性を伸ばす教育を推進する。
 - ② 時代の変化に対応した教育活動を総合的に展開する。
 - ③ 主体的な学びを尊重し、生涯学習社会を見据えた学校づくりを行う。
 - ④ 人権尊重の精神を基盤に豊かな人間性の育成をめざす。
 - ⑤ 道徳教育・体験活動を充実し、「豊かな心」を育む。
 - ⑥ 震災に学び、たくましく生きる力を育む。
 - ⑦ 学校・家庭・地域社会との連携と融合を図る。
 - ⑧ 社会の変化に対応できる指導者としての資質能力の向上を図る。

2 本年度の学校重点目標

- 学習指導要領を踏まえた教育課程の着実な実施 ○「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進
 ○人権教育の徹底 ○道徳教育の充実 ○心の通い合う授業を基盤とした生徒指導の充実 ○特別支援教育の充実
 ○地域と連携した福祉教育・ボランティア活動の推進 ○環境教育の推進 ○国際理解教育(外国語活動)の充実
 ○情報教育の充実 ○食育の推進・健康教育の充実 ○「兵庫の防災教育」の充実 ○学校・家庭・地域との連携
 ○教職員の資質、指導力の向上を図るための研修の充実

総合的な学校関係者評価

昨年度に引き続き、本年度も保護者アンケート、さらには児童アンケートを実施し、それらの結果を踏まえて、学校改善を図っていこうとする姿勢はよい。
 保護者アンケートの回収率が98%と昨年度より高く、保護者への学校教育への関心、期待度が高いことが伺われる。特に「学校が楽しい」という項目が、保護者アンケート、児童アンケートともに92%以上に達しており、本校の教育活動の成果と言える。また「学校は相談すると快く応じてくれる」という項目では96%と高く、保護者の学校への信頼度の高さも伺われる。「基礎学力の定着を図っている」では保護者95%、「授業がよくわかる」では児童89%と高く、学校の取組が児童の学力向上につながっていると言える。
 とりわけ特色ある教育活動としての「義士教育」は、義士検定で6年生が全員合格し、昨年に比べ高く評価できる。これは、具体的目標を全職員が意識し、その方策に組織的に取り組んだ成果である。また、教職員の自己評価を学期に1回実施することは、次の学期への目標や課題が明確になり、教職員の意識化により取組の改善が図られている。
 今後も目標の設定や具体的方策の検討、評価後の改善の手立て等、評価活動を全職員で行い、さらなる学校改善と教育活動の活性化につないでいくことができるよう取組を継続してほしい。

学校関係者評価

3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

観点(重点目標)	評価項目(学校・教師の取組) 評価指標 および 目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
教育課程の着実な実施	項目 基礎基本の定着のために指導方法の工夫や改善に努めているか。 指標 15分間モジュールを計画的に進める。赤穂ドリルの活用。	教職員アンケート 3. 95	A	学習規律について共通理解し、授業の中で指導していくと共に、子どもの実態や課題に寄り添い、個に応じた指導研究を継続していく。通常授業との関連や家庭学習を視野に入れて学習タイムに取り組む。
	項目 問題解決的な学習に取り組んでいるか。 指標 興味・関心をもち、課題を見つけ、主体的な学習に取り組む。	教職員アンケート 3. 19		
	項目 指導と評価の一体化を図っているか。 指標 明確な目標・多様な評価等により一人一人を伸ばす。	教職員アンケート 3. 67		
生きる力を育む魅力ある学校づくり	項目 環境整備を年間を通して意図的・計画的に行っているか。 指標 美しい学校、心やすらぐ学習環境となっている。	教職員アンケート 3. 48	A	「山・川・義士」を合い言葉に特色ある教育活動の推進に努める。危機管理マニュアルを見直し整備する。掲示用クリップや掲示用テープを用いて児童の作品を効果的に掲示したり、時節に応じた掲示をしたりして校内環境の美化に努める。
	項目 特色ある教育活動の推進に努めているか。 指標 雄鷹台山・加里屋川・赤穂義士・特別クラブ・学校茶道	教職員アンケート 3. 19		
	項目 実効ある危機対応マニュアルを策定し、危機管理体制を構築されているか。 指標 危機対応マニュアルにより、定期的に対応訓練を行う。	教職員アンケート 3. 14		
生徒指導	項目 児童の内面理解に基づく指導に努めているか。 指標 人間的なふれあい、よさが認められ、いきいきとした学校生活をおくる。	教職員アンケート 3. 77	A	カウンセリングマインドによる児童との信頼関係づくりをする。家庭との連携を密にし、問題の早期発見に努めると共に迅速な対応をする。
	項目 好ましい人間関係、児童の心の居場所づくりに努めているか。 指標 いじめ、不登校問題への迅速な対応ができています。	教職員アンケート 3. 91		
人権教育	項目 教育活動全体を通じ命や人権を大切にすることを育てているか。 指標 自他の命や人権を大切に、お互いを思いやる心が育つ。	教職員アンケート 3. 90	A	教師の人権意識や人権感覚を高めると共に、人権教育の視点に立って、子ども同士のかかわりが活発になることを重視し指導する。
	項目 すべての教育活動の中で、人権教育が組織的・計画的に推進されているか。 指標 教師が人権感覚を高め、校内研修の計画的な実施を行う。	教職員アンケート 3. 71		

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	子ども一人一人の実態や課題に応じた指導のために、教材研究や指導方法の研究に努め、「かかわり合い、伝え合い、学び合う」授業を目標にし、児童の学習意欲を高めながら学力向上を図る。家庭との連携協力を図り、家庭学習の徹底を図り、基礎的・基本的な内容の定着に結びつける。
◎	◎	校内環境の整備と校内美化に向けて、教職員の校内美化への意識を高めると共に、児童の清掃活動をより充実させる。特色ある教育活動で取り組んでいる内容について、今後も「学校だより」や「ホームページ」を活用した情報発信を適時継続し、さらに充実させる。不審者対応訓練等、外部機関との連携を取り、より正確な対応の仕方を訓練するよう計画的に取り組む。
◎	◎	問題や課題を抱える児童に対し、教科担任制や複数指導を活用することで児童を多面的に理解すると共に、学年や学校として組織的に取り組み児童の内面理解に努める。不登校傾向の児童については、担任間及び全職員で十分な引き継ぎや共通理解を図り、未然防止の対応ができるよう学校として組織的に取り組む。
◎	◎	教職員自らが人権感覚を磨くため、「赤穂市人権教育推進上の基本事項」をよく吟味しながら実践する。本年度の研究の課題と実践校や先進校の成果等をつなぎ、人権教育の実践研究に取り組む。

観 点	評 価 項 目 (学校・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策
	評 価 指 標 および 目 標 値 (期待される姿)				
道徳教育	項目 指標	全教育活動の中で、道徳性の育成に努めているか。 体験を生かした学習に児童は意欲的に取り組んでいる。	教職員アンケート 3. 5 2	A	児童の心に響く魅力的な教材を活用することによって、指導過程のさらなる工夫改善に努めると共に、道徳教育の要となる道徳の時間の充実を図る。
	項目 指標	道徳の授業時数を確保し指導法の工夫や研究に努めているか。 カリキュラムの充実と授業改善、道徳資料や心のノートの活用。	教職員アンケート 3. 3 8		
特別支援教育	項目 指標	支援を要する児童へのかかわりは適切にしているか。 指導計画を作成し、適切な教育的支援を進める。	教職員アンケート 3. 6 8	A	支援を要する児童への適切な支援の方策を考える。支援を要する児童の理解と周知について、あらゆる機会をとらえて保護者に啓発していく。
	項目 指標	保護者、関係諸機関との連携を図っているか。 関係諸機関での教育相談、保護者との連携・協力による適切な支援	教職員アンケート 3. 7 7		
福祉教育	項目 指標	高齢者や障害のある人などへの理解を深めているか。 体験学習など多様な学習方法。関係機関との連携。	教職員アンケート 3. 2 4	A	関係機関との連携をさらに深め、福祉体験学習や交流を推進する。
環境教育	項目 指標	身近な環境から問題に目を向け取り組んでいるか。 ゴミ減量・省エネ・リサイクル活動の実践化、環境体験活動の実施	教職員アンケート 3. 2 4	A	ゴミ減量、省エネ、リサイクル活動の計画的な実践を図る。
国際理解教育	項目 指標	他国の歴史・文化について理解を深めているか。 国際交流活動・A L Tとの交流・自国の伝統文化	教職員アンケート 3. 1 9	B	校内研修の計画的な推進をする。幼小中の連携やA L Tとの協力指導の充実を図る。
	項目 指標	英語活動に積極的に取り組んでいるか。 ゲームや歌や会話などを楽しみながら学習する。	教職員アンケート 3. 1 4		
情報教育	項目 指標	コンピュータ等の情報機器の積極的な活用を進めているか。 コンピュータの使い方に慣れ、意欲的に学習する。	教職員アンケート 3. 5 2	A	情報機器活用について校内研修を行い、教師の指導力を高める。
健康教育	項目 指標	学校保健の充実と児童の健康に対する意識の向上に努めているか。 食育、正しい性教育、禁煙教育、外遊びの奨励	教職員アンケート 3. 3 6	A	専門分野の講師を招聘しての健康教育を推進すると共に、保護者への啓発を図る。
防災教育	項目 指標	防災教育に係る指導力・実践力の向上を図っているか。 防災訓練や心肺蘇生法の研修により、意識と技術を高める。	教職員アンケート 3. 4 5	A	地震、水害等を想定した避難訓練を計画的に実施する。
家庭・地域との連携	項目 指標	家庭や地域への情報発信を十分に行っているか。 オープンスクール、各種会合、各種通信、HP等による情報発信	教職員アンケート 3. 6 4	A	各種行事や、HPの更新、メール配信、各種通信で学校の教育活動や児童の様子を積極的に発信する。早寝・早起き・朝ごはん運動の推進を保護者と連携して行う。
	項目 指標	地域人材や地域教材の活用を努めているか。 自然体験活動や社会体験活動など、多様な学びができる。	教職員アンケート 3. 1 9		
	項目 指標	家庭や地域との連携・協力は図られているか。 オープンスクール等への参画や早寝・早起き・朝ごはんの推進	教職員アンケート 3. 6 4		
資質・指導力の向上 研修の充実	項目 指標	実践的指導力の向上に努めているか。 授業公開、自主研修、得意分野づくりに励んでいるか。	教職員アンケート 3. 8 2	A	授業研究を通して検証してきた授業改善のポイントを明確にさせ、全員のものにしていく。
	項目 指標	教育公務員としての使命感・倫理観の自覚ができてきているか。 服務規律を点検し、心ふれあう職場づくりに努めている。	教職員アンケート 3. 4 1		

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	道徳の時間の指導法のパターン化や様々な手法の開発に努め、児童の心に響く道徳教育の実践化を図る。心の教育としての道徳教育の充実をさらに図るため、オープンスクール等で授業を公開したり、学校行事への保護者や地域の方の積極的な参加や協力を呼びかけたりして、家庭や地域との連携をさらに深める。
◎	◎	定期的に校内委員会を開催したり職員会議等を活用したりして、今後も全職員が特別支援教育の在り方について共通理解していく場と機会をつくる。特別支援学級保護者会を定期的にもったり、保護者を対象に、特別支援教育についての教育講演会を開催したりして啓発を図る。
◎	◎	本年度の取組を継続できるよう、計画・経過などを継承していく。
◎	◎	加里屋川を環境学習の場とし、清掃活動だけでなく、生態系及び自然環境の維持管理についても取り入れる。
◎	○	英語活動の研究を計画的に推進し、英語コミュニケーションの素地づくりを目指した取組を行い、指導力の向上に努める。
◎	○	I C T、情報リテラシーの指導技術の向上や情報モラルの確立と指導に努める。
◎	◎	養護教諭と栄養教諭が連携し、保健指導の充実を図る。家庭や関係諸機関と連携した取組を今後も推進する。
◎	○	外部機関との連携を取り、より正確な対応の仕方を訓練するような計画を行う。
◎	◎	HP (本年度月平均 5.2 回更新)を活用し、より多くの情報を発信するよう引き続き取り組む。保護者や地域とのコミュニケーションづくりに努め、学校の必要とすることを明らかにし、地域諸団体や保護者に積極的に働きかける。家庭学習を含め、ノート指導や学習の様子等は、各種通信等を活用しながら今後とも発信していく。
◎	◎	1 時間の授業を見る視点を「教師がどう教えたか」から「子どもがどう学んだか」に変換し、授業後には十分議論し合えるような研究協議会を今後も継続して取り組む。教職員のメンタルヘルスに留意し研修を実施する。

自己評価における特記事項

評価資料の数値は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。

4 : 達成した 3 : ほぼ達成した 2 : あまり達成できなかった 1 : 達成できなかった

職務が異なることから、評価項目がすべてあてはまるとは限らない。

達成状況で、評定点数が「3. 2 以上」をA 「2. 8 以上 3. 2 未満」をB 「2. 8 未満」をCとしている。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

教職員のさらなる資質向上に向けた研修

あいさつ運動の推進、テレビ・ゲームの時間の削減、睡眠時間や家庭学習、読書時間を増加し充実させるための学校、家庭、地域の連携強化

教職員の協働的・組織的な学校運営の向上

学校行事等、場に応じた児童の望ましい態度の育成